

会員の活動報告

(2007年11月～2008年10月)

伊川 徹

- ヴェルサイユとモリエール、(追手門学院大学国際教養学部英語コミュニケーション学科出張講座、2007年11月)
- ノルマンディー地方 ― 頑張ってみよう (日仏文化協会フランス文化講座、2007年12月)
- ノルマンディーを縦横斜めに見てみよう! (le Cours 文化サロン、2007年12月)
- 学びを真似る (まねびをまねる) (第22回関西フランス語教育研究会、2008年3月)
- フランス的生き方の勧め(1) (ラポール学園 (社団法人京都勤労者学園) 人間学講座、2008年10月)
- モリエールとヴェルサイユ I (日仏文化協会フランス文化講座、2008年10月)
- フランス的生き方の勧め(2) (ラポール学園 (社団法人京都勤労者学園) 人間学講座、2008年10月)

伊藤誠宏

- 17世紀フランス語における名詞の数 ― Ménageが留意した名詞 ― (『仏語 仏文学』第34号、2008年3月)

大久保朝憲

- フランス語の対義否定発話の意味と機能 (『仏語 仏文学』、2008年2月)
- 言語行為としてのボケ：フランス語の緩叙法を中心に (日本フランス語学会談話会口頭発表、於慶応大学、2008年7月)

大山佳栄子

- アラン・レネ *Muriel ou le temps d'un retour* における記憶の表象 (関西大学フランス語フランス文学会口頭発表、2007年12月)

奥 純

- アラン・ロブ＝グリエにおけるエグゾチスム (その1) ― 言葉と物 ― (関西大学『文学論集』第58巻第2号、2008年10月)

川神博弘

- サルトルと全体主義 — 預言者サルトル — (『仏語 仏文学』 第34号、2008年3月)
- フランス文化の三要素 — 古代ギリシャ・ローマとカトリック — (日仏文化協会 関西センター公開講座講演、2008年5月)
- サルトルと全体主義 — 希望の供給者 — (CAF・日仏文化講座講演、於神戸国際会館、2008年11月)

木村 藍

- 障害者の描かれ方 (関西大学フランス語フランス文学会口頭発表、2007年12月)

笹倉塩子

- 『日本の民話』のフランス語訳「カニのじいさん」と「こわい雨もり」(『京都経済短期大学論集』京都経済短期大学経営・情報学会、2008年3月)

高岡俊彦

- アルベール・カミュ 物語のなかの母親のイマージュ (関西大学フランス語フランス文学会口頭発表、2007年12月)

太治和子

- ヨーロッパ共通参照枠におけるレベルB1について (『関西大学外国語フォーラム』 第7号、2008年3月)
- *Sur le passé surcomposé ou le passé du passé* (『仏語 仏文学』 第34号、2008年2月)

出口由美

- ジダンの頭突き騒動をめぐるフランスメディアのディスコース — ジダンの持つ二面性の考察を通して — (関西大学フランス語フランス文学会口頭発表、2007年12月)

友谷知己

- «Les épisodes dans *La Pratique du théâtre* de d'Aubignac» (『仏語 仏文学』 第34号、2008年3月)

内藤義博

- フランス・オペラの誕生 — その三 — (『立命館言語文化研究』第19巻3号、2008年2月)
- フランス・オペラの誕生 — その四 — (『仏語 仏文学』第34号、2008年2月)

野浪嗣生

- モーパッサンの短編小説における枠組の機能 (三) (関西大学『文学論集』第57巻3号、2007年12月)
- 現代のシャンソン (『仏語 仏文学』第34号、2008年3月)

山川清太郎

- 2年間でフランス語文法をどのように教えるか? RENCONTRES 22 (関西フランス語教育研究会、2008年7月)
- 書評
 及川健二 (2006)、『沸騰するフランス — 暴動・極右・学生デモ・ジダンの頭突き』(東京:花伝社、p.291、2008年10月)
 及川健二 (2006)、『グイ@パリ — 現代フランス同性愛事情』(東京:長崎出版、p.381、2008年10月)
 及川健二 (2007)、『フランスは最高! — ぼくの留学体験記』(東京:花伝社、p.251、2008年10月)
Revue japonaise de didactique du français, Vol.3, n°2, Études francophones (日本フランス語教育学会、2008年10月)
- 2年間でフランス語文法をどのように教えるか? (関西フランス語教育研究会、2008年3月)

修士論文題目

2008年3月

高岡 俊彦

アルベール・カミュ『転落』における父と母

後 記

2008年（平成19年）4月私たちの専修は新任教員としてアドリアナ・リコ-横山先生をお迎えし、同時に「関西大学フランス語フランス文学会」に入会していただきました。研究・教育の両面にわたり、横山先生の今後のご活躍が期待されます。

学部・大学院学生諸君の交換派遣留学の件数は相変わらず堅調であり、学会員諸氏の様々な分野での活動もますます活発な様相を呈しております。

10月9日ロマネ金亭師をお招きして“フランス語落語と楽しいワイン談義”の会を持ちました。大教室に入りきれぬほどの盛況ぶり、大いに盛り上がりました。以上報告申し上げます。

本学会2008年度研究発表会・総会が12月20日(土)AV-A教室で開催され、活発な質疑が飛び交う研究発表会となりました。発表者と発表題目は以下の通りです。

1. アラン・レネ論『ミュリエル』

本学大学院博士前期課程 大山佳栄子 氏

2. 中世ファルスと狂言の比較

— 人間関係の対立における第三者の役割 —

本学大学院博士後期課程 小澤 祥子 氏

3. アンドレ・ジイドにみる「ロック・イン」の概念

— 《複雑系》の観点から —

大阪市立大学教授 津川 廣行 氏

研究発表会終了後の総会では活動報告、会計報告などの案件が審議・了承されて閉会となり、次に会場をチルコロに移し、17時から恒例により懇親の夕べとなりました。

『仏語 仏文学』は今号6名の執筆者を得て、初版以来35回目の刊行に至りました。当論集は、いわば歴史と伝統の域に入ったと申し上げて過言ではないと思われます。慶賀に値する積み重ねであります。先人のご尽力に思いを馳せるとともに、当論集のますますの発展に寄与すべく、会員諸氏の更なるご健筆に期待するところ大であります。

(川神 傅弘)

関西大学フランス語フランス文学会々則

1. 本会は関西大学フランス語フランス文学会 (Société de langue et littérature françaises de l'Université Kansai/Kansai University Society for the Study of French Language and Literature) と称し、事務所を関西大学文学部フランス語フランス文学専修合同研究室に置く。
2. 本会はフランス語フランス文学に関する研究および発表と、これに関連する事業を行なうことを目的とする。
3. 本会は次の事業を行なう。
 1. 機関誌「仏語 仏文学」(Bulletin de la Société de langue et littérature françaises de l'Université Kansai/The Bulletin of Kansai University Society for the Study of French Language and Literature) およびその他の出版物の刊行。
 2. 研究会・講演会の開催。
 3. その他本会の目的にかなう事業。
4. 本会はその目的に賛同する次の会員をもって構成する。
 1. 関西大学文学部総合人文学科フランス語フランス文学専修専任教員。
 2. 関西大学大学院文学研究科フランス文学専攻・専修学生、およびその修了者 (旧学科名称時の大学院修了者を含む)。
 3. 関西大学文学部総合人文学科フランス語フランス文学専修学生、およびその卒業生 (旧学科名称時の学部卒業生を含む)。
 4. 本会の趣旨に賛同し、入会を認められた者。
5. 本会の目的を達成するため会費を納入する。
6. 本会に次の役員を置く。その任期は1年とし、重任を妨げない。
 1. 会長 1名
 2. 委員 若干名
 - a. 企画委員
 - b. 編集委員
 - c. 庶務・会計委員会長と委員によって委員会を構成し本会の実務の運用に当り会長はこれを統括する。
7. 会員は機関誌「仏語 仏文学」等の配布をうける。また会員は機関誌への投稿、および本会の行なう事業に参加することができる。なお、投稿論文は、会則6に定める委員会の議を経て掲載される。
8. 本会の重要事項は総会の議決による。

(2007年4月1日から施行)

仏語 仏文学 第35号

2009年3月15日 発行

編集・発行 関西大学フランス語フランス文学会
吹田市山手町 関西大学
フランス語フランス文学研究室

印刷所 株式会社 遊文舎
大阪市淀川区木川東4丁目17番31号
電話 (06) 6304-9325(代)

(非売品)